

南牧村花卉生産組合花情報(平成 27 年 6 月)

「なんもくの花」



群馬県の南西部に位置する南牧村では、平均年齢 70 歳以上の 16 名が 50 種類を超える宿根草や花木類などの切り花を栽培し、「なんもくの花」「荒船の花」として首都圏へ出荷しています。(上の写真は 6 月の主力商品「スモークツリー」です)

『新しい出荷箱』

今年度から出荷箱が変わります。昨年までは「荒船の花」と印字された出荷箱でしたが、今後は「なんもくの花」の出荷箱に変わっていきます。群馬県南牧村産の「なんもくの花」をよろしく願いたします。



『雄大な自然の中で』

山間の地、南牧村では、豊かな自然に囲まれて切り花栽培が行われています。標高 500m ほどにある子母山の畑では、フサグリやスモークツリーなどの出荷が終わり、ヒメヒマワリ、アジサイ・アナベル(写真)、リシマキアなどの出荷が始まります。



『ヒペリカムの出荷間近！』

現在の南牧村での花栽培の基礎を築いたのがヒペリカムです。南牧村では平成 3 年頃から栽培が始まり、今では「なんもくの花」の看板商品です。南牧村のさわやかな風を身にまとった赤やピンクのヒペリカムの出荷はもうすぐです。

